

C-7 東海道メガロポリスにおける家計の比較分析

お茶の水女子大 伊藤 秋子

1. 最近、日本でも東海道メガロポリスが問題となっ
てきている。メガロポリスの特徴の1つは、多収入、大
量消費である。こうした見地から、日本で一応、東海道
メガロポリスと考えられる地域の若干の核心都市をと
り、その家計の特徴を考察しようと試みる。

2. (1) 総理府統計局：家計調査の対象となっている
都市を、東海道メガロポリスの核心都市のグループと、
その他の都市のグループに分けて、両者を比較考察す
る。

(2) 対象とする年次は、昭和28年、33年および37年
である。

(3) 比較の内容は実収入、消費支出総額、エンゲル係
数とし、それぞれの値、グループ内の格差および世帯数
の分布をみる。

3. 東海道メガロポリス内の核心都市のグループの家
計の方が、その他の都市グループよりも、実収入および
消費支出総額の平均値はかなり高く、この点からは、両
グループ間の家計にかなりの格差のあることが推定され
る。また、実収入、消費支出総額およびエンゲル係数の
大きさ別にみた世帯の分散は、東海道メガロポリス内の
核心都市の方が小さい。